

ニホンヤモリ



緑水園にて

(撮影：桐原佳介)

■ニホンの名がついているけど窓ガラスの外に、べたりと張り付いたヤモリの姿を見たことがありますか？身近な爬虫類のひとつニホンヤモリ、大きさは12センチくらいです。日本という名を持ちながら、実は平安時代より後に、大陸からやってきた外来種であることが、最近の研究で明

らかなになってきました。ほぼ例外なく、民家や人工物などに住み着き、原生自然では殆ど確認されていません。人の生活の近さから、九州地方では「かべちよる」という方言の呼び名もつけられています。移入された歴史が古いことや、ヤモリの侵入によって住処を追われた生き物が認められないことから、明治以降に侵入してきた外来生物とは別の扱いになっており、今では里山の隣人としてすっかり定着しています。

■イモリとヤモリ
似た名前の生き物であるこの2種は、生物分類上は全く別のグループに分けられません。イモリ（ニホンイモリ・別名アカハライモリ）は、両生類で主に水辺に生息し、井戸を守る「井守」とも表記されます。ニホンヤモリは、ヘビやトカゲと同じ爬虫類で家を守る「家守」と紹介されることもあります。明かりによってくるガやカなどの衛生害

虫を食べてくれるイメージからつけられたのかもしれない。

■捕まえて触ってみよう

触っても毒の心配もなく、噛まれてもアゴの力が弱いので、捕まえて遊ぶにはもってこいのヤモリ。是非、つるつるの窓ガラスをも這い昇ることができ足の裏の秘密に触れてみましょう。小さな毛が密生していて、吸盤のような働きを持っています。本物に出会えた時、進化の過程で得た独特の感触を確かめるチャンスです。優しく捕まえないと、尻尾を自分からすぐ切ってしまうので、注意しましょう。



ヤモリの手の裏

自然観察指導員 桐原真希

祐生出会いの館【緑水湖畔】 インフォメーション

■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)

祐生コレクションの中で最も多いのはポスターで約1400枚あります。満州関係のものをはじめ、今日では貴重なものばかりで、帆船日本丸を所有する横浜みなと博物館からも、今年秋の展示に船会社製作ポスターを借用したいという要請が来ています。現在、7月16日迄の予定で大正から昭和初期に作成された「博覧会ポスター」を75枚(内42枚は6月25日まで)展示していますが、時代背景を反映しているだけでなく、鑑賞にたえうるデザインとなっています。是非ご覧ください。



大正11年(1922)「平和記念東京博覧会」第一次世界大戦終結による平和を意識したものです。次の年は関東大震災です。